

# 焼物ワーキング部会の検討状況

---

令和 6 年 9 月



# 1. 令和6年度の焼物WG部会における検討状況

- 令和6年度、焼物WG部会における主な検討内容は、下記の通りである。

会議名		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
焼物工程	龍頭棟飾	陶土型起こし	素焼き・施釉・本焼成		陶片仮組み				GRC一体成型					
	鬼瓦	製作手法の検討			手捻り造形		素焼き	施釉	本焼き	GRC一体成型				
焼物WG部会					● 7/1									1回
焼物WG部会に係る調査・監修等			● 6/3 陶土・釉薬の監修				● 9/18 予定_鬼瓦（吽形）造形監修	● 10月前半予定_鬼瓦（阿・吽）1対造形監修	● 10月後半予定_鬼瓦（阿・吽）1対素焼き監修	● 11月予定_鬼瓦（阿・吽）1对本焼き監修				適時実施

開催日	会議名等	主な検討内容
6/3	監修	・【監修】 釉薬及び陶土配合比の承認
7/1	第9回WG部会	・ 釉薬及び鬼瓦の製作工程の変更について
9月～	監修	・【監修】 鬼瓦（阿形・吽形）及び龍頭棟飾の監修を必要に応じて適宜実施

## 2. 製作物別の進捗状況（概要）

- ・ 焼物WG部会における制作物別の進捗状況は下表の通りである。

番号	制作物名称	国への引渡期限	新たな知見	状況
18	龍頭棟飾（大棟）	令和7年4月頃	高精細化の古写真による造形修正	素焼き・施釉・本焼き・仮組中
19	龍頭棟飾（唐破風）正面（胴体含む）	令和7年4月頃	高精細化の古写真による造形修正	素焼き・施釉・本焼き中
20	降棟 鬼瓦	令和7年4月頃	高精細化の古写真による造形修正	手捻りにて製作中

### 【国への引渡し方法】

- ・ 焼物WG部会では、制作物別の引渡し方法は、次の通りとなることを確認した。  
龍頭棟飾：令和6年10月末以降引渡し開始予定（一部は仮組した各陶片を段階的に引渡し）  
降棟鬼瓦：令和6年12月末以降引渡し開始予定（一体成形物で引渡し、龍頭棟飾の合間を予定）
- ・ 具体的な引渡時期や方法は、城郭内の状況等（引渡し後の保管場所の確保等の可否を含め）を考慮し、適宜、国と調整を詰めていく。

# 3. 龍頭棟飾の製作の進捗状況

- 造形は、今回高精細化された鎌倉古写真(大正11年撮影)をもとに、下地型(110%サイズ)の製作時に、大棟2回、唐破風3回の監修を行った。
- 下地型の上に重ねて石膏凹型を製作し、それを裏返して陶土を叩きこむ「陶土型起こし」の作業を実施。その後、石膏凹型から離型した陶片は、型抜きを考慮し下地型で甘くしていた箇所への彫込み、内側に裏足の形状を付ける等しつつ、水分調整を適切に行い乾燥を進め、素焼き・施釉・焼成を実施。
- 令和6年8月より、陶片を複数個組み合わせるの仮組を順次進めつつ、個々の陶片の微調整を行いながら、陶片等の年度内の引渡しに向け作業を行っている。



▲龍頭棟飾(大棟)下地型 ※阿吽形共通



▲陶土型起こしの様子(角部)



▲仮組状況の様子

石膏原型  
製作  
(1/5)

下地型  
製作  
(110%程度・  
発泡スチロール)

石膏凹型  
製作  
(型取り)

陶土  
パーツ別  
型起こし  
(内側貼付・離型  
・加工・乾燥)

素焼き

施釉

焼成

陶片調整  
(仮組含む)

GRC一体成形  
屋根骨組との  
固結・接合  
避雷導体調整

# 4. 鬼瓦の製作の進捗状況

- 鬼瓦の造形は、今回高精細化された鎌倉古写真(大正11年撮影)をもとに、阿吡形とも見直しが必要なため、原型を再制作することとし、粘土原型の段階で3回の監修を行い、石膏原型を製作。
- 鬼瓦の陶土は、令和5年にうるま市内にて確認された“石川白土”の活用を見据え陶土開発を行い、石川白土と谷茶土(恩納村産)の配合を基本とすること、釉薬は一部を伝統釉とすることとした。
- 平成復元と同様の成形方法だと、ひび割れの発生等が確認され、分割での成形となった。
- 令和6年8月より手びねりによる造形作業を開始し、予備を含め、年内に焼成を終える予定。
- 令和6年12月以降にGRC一体成形を行うこととし、鬼瓦の年度内の引渡しに向け作業を行っている。



▲石膏原型 (左：吡形、右：阿形)



▲手びねり製作の初期段階 (吡形下部)



▲手びねり製作の途中経過 (吡形下部)

粘土原型  
製作

石膏原型等  
製作  
(110%)

手びねり成形  
(内側加工・乾燥)

素焼き

施釉

焼成

GRC  
一体  
成形

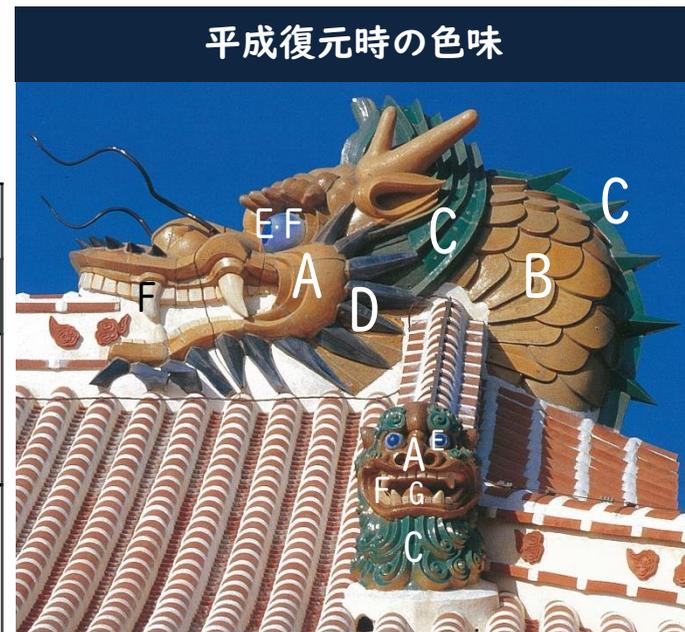
赤瓦上での  
固定・据付

# 5. 焼物の色味に関する進捗状況

## 釉薬の検討状況

- 釉薬の色味は、これまでのWG部会および監修にて、下表の通り決定。

部位	A：顔	B：胴体（鱗）	C：たてがみ・背びれ	D：口髭・顎鬚
色味	黄味がかった薄茶色	茶色	青緑色	黒味がかった青緑色
龍頭棟飾	一般釉 【黄瀬戸釉】	一般釉 【伊羅保釉】	伝統釉 【銅青磁釉】	一般釉 【織部釉】
鬼瓦	伝統釉 【飴釉】			
部位	E：黒目	F：白目	F：歯	G：舌
色味	黒色	白色	黄味がかった白色	くすんだ黄赤色
龍頭棟飾	一般釉 【焦げ織部釉】	一般釉 【ワラ灰釉】	【陶土】 (陶土の色味)	一般釉 【ベンガラ】
鬼瓦		一般釉 【透明釉】 (陶土の色味)		



平成復元時の色味



G：舌  
【ベンガラ】



← 色味確認状況  
(屋外実施)

# 【参考】青緑色 伝統釉（オーグスヤー）の原料製作

## 鬼瓦製作チーム協働での伝統釉（オーグスヤー）の原料製作

■実施日時：令和6年5月8日（水）10：00～16：00

■場 所：常秀陶器工房

■参加者：鬼瓦製作チームの若手技術者6名（※壺屋組合 島袋理事長による実演）

### ■主な製作工程

